

脊椎動物形態形成遺伝子発現調節機構の進化： Dlx遺伝子群を例に

Evolution of vertebrate morphogenetic gene regulatory mechanisms:
Dlx gene cluster as an example

理化学研究所

生命機能科学研究センター 高速ゲノム変異マウス作製支援ユニット

ユニットリーダー 隅山 健太 先生

ホメオボックス転写調節遺伝子Dlx遺伝子群は進化的に新しく獲得された形質の発生に関わることが多く、新機能獲得を伴う動物の発生進化を考える上で、どのように新規発現を獲得してきたのかを研究する対象として非常に興味深い遺伝子である。私たちはエンハンサー新規発現獲得による進化過程を明らかにするため、ゲノム編集技術により進化を模倣した変異を導入することによりマウスDlx遺伝子群TAD領域内の機能エレメントの*in vivo*での機能解析を進めている。これまでの機能解析の結果を踏まえて、液液相分離モデルを想定した発生調節遺伝子の発現制御機構とその進化を議論する。

2019年8月6日（火） 13:30 ～ 14:30

於 湘南校舎12号館1階 マイクロ・ナノ研究開発センター

マイクロ・ナノ研究開発センター 藤原 0463-58-1211（内線4790）

fs755837@tsc.u-tokai.ac.jp

どなたでも聴講可能です